明治中

# 「学びに向かう力」の育成

## ～主体的な学びを支える学習場面の工夫～

（３年計画の３年次）

校長　　岩　舘　　昇

### １　研究主題について

自然に恵まれ、歴史ある土地柄で育った本校の生徒は、素直で純朴である。教師の指導に従順であり、生徒同士の人間関係も温かく良好に築かれている。それ故か、物事を批判的に見直したり、自ら課題を見つけ出したりする能力に乏しい面が見られる。また、通常学級にも、授業における学習内容を理解するのに特別な支援を必要とする生徒が複数おり、学力の開きも見られる。

学力差を改善するために、基礎力コンテストの事前事後指導の他、各教科等の授業においては学習形態の工夫や教え合い学習により理解をそろえることや、意見や考えを発表しやすい環境づくりに、全体指導のみならず個別指導にも取り組んできた。しかし、学力診断テスト等の結果に成果が表れていない。丁寧に支援しているつもりであったが、生徒が自ら進んで考えようとする力に歯止めをかけることになったのかもしれないと分析する。

本校では「学びに向かう力」を「自ら進んで考え、工夫して学習を進める力」と捉え、本研究主題のもとに研究を進め、本年度は３年目となる。「考えたい、知りたい、解決したい」と生徒に思わせるよう、授業の導入から課題設定までにおいて教師の働きかけを工夫するとともに、探究的な学習活動となるよう学習場面や方法を工夫し、互いに配慮し合える生徒同士の人間関係を土台として、互いの考えをよく聴き、自分の考えを深め、根拠をもって表現できる生徒の育成を目指したい。

### ２　研究のねらい

生徒が互いの考えをよく聴き、自分の考えを深め、根拠をもって表現できる学習場面を、各教科等の特性を生かして設定することにより、生徒の「学びに向かう力」を育成する。また、教材、学習形態、授業展開を工夫して授業実践を積み重ね、相互授業参観や生徒へのアンケート・教師の授業改善自己チェックシートによる授業改善を図り、研究主題に迫る。

### ３　研究仮説

解決の必要性のある課題を設定すること、明確な到達目標の提示、協働と対話を通して探究的に問題を解決する場面の工夫に取り組むことにより、生徒が自ら進んで考え、工夫して学習を進めることができるようになるとともに、更に学びを深めようという主体的に学びに向かう力が育成されることを、授業実践を通して明らかにする。

### ４　研究内容

(1) 生徒が互いの考えをよく聴き、自分の考えを深め、根拠をもって表現できる学習場面を意図的に設定する。

(2) 相互授業公開の実施を通して、次の内容について協議し、授業改善に努める。
　ア　解決の必要性のある課題設定
　イ　明確な到達目標の提示
　ウ　探究的に問題を解決する場面の工夫

(3) 授業改善チェックシート及び生徒への授業アンケートを定期的に実施し、授業改善に生かす。

## ５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

| 月 | 日 | 学年 ・ 授業者 ・ 題材名 ・ 講師 ・ 成果 ・ 授業の概要　等 |
|---|---|---|
| 4 | 4 | 全体会（共通理解）　研究主題・副題 |
| 5 | 25 | 全体会（共通理解）　学習指導案の作り方・様式の確認 |
| 7 | 6 | 計画訪問（国語、社会、理科、音楽、道徳、自立活動）<br>第１回授業研究（要請訪問）<br>１年道徳　授業者　太田也主志　「ひまわり」 |
| | 19 | 第２回授業研究（相互授業公開）<br>２年道徳　授業者　夏坂久美子　「異なり記念日」 |
| 8 | 17 | 全体会（授業改善チェックシート結果の共有と授業改善の方向性の検討）<br>相互授業公開（第２回）の協議 |
| | 30 | 第３回授業研究（相互授業公開）<br>３年道徳　授業者　鳶谷　康司　「二通の手紙」 |
| 9 | 8 | 第４回授業研究（相互授業公開）<br>１年音楽　授業者　沢森真奈美　「夏の思い出」 |
| | 14 | 第５回授業研究（相互授業公開）<br>２年道徳　授業者　須藤　　恵　「むこう岸には」<br>相互授業公開（第５回）の協議 |
| | 21 | 相互授業公開（第３回、第４回）の協議 |
| 11 | 16 | 第６回授業研究（相互授業公開）<br>２年数学　授業者　石沢　正彦　「多角形の内角の和」 |
| | 24 | 相互授業公開（第６回）の協議 |
| 12 | 1 | 第７回授業研究（相互授業公開）<br>３年数学　授業者　髙橋　　昭　「中点連結定理の利用」 |
| 1 | 10 | 相互授業公開（第７回）の協議 |
| | 18 | 全体会（授業改善チェックシート結果の共有と授業改善の方向性の検討） |
| | 31 | 第８回授業研究（相互授業公開）<br>３年道徳　授業者　戸田　恵美　「『リクエスト食』を支える」 |
| 2 | 22 | 相互授業公開（第８回）の協議<br>全体会（今年度の成果と課題、次年度の副題の検討） |

(2) 一般研修

| 月 | 日 | 内 容 ・ 講 師 ・ 概 要 等 |
|---|---|---|
| 5 | 25 | ＮＲＴ及び知能検査の結果の分析・考察、共通理解 |
| 6 | 2 | 要請訪問　一般研修等支援「問題解決的な授業づくり」　福田秀貴 主任指導主事 |
| | 23 | Ｑ－Ｕ検査の分析・考察と共通理解 |
| 1 | 6 | 小・中ジョイントスクール推進事業講話<br>「『いじめ』『不登校』等の根っこにあるもの」　北山勝則 スクールカウンセラー |

## ６　研究の成果

(1) 話合いや教え合いの活動により相手の考えを聴く態度の向上や、自分の考えを深めようとする様子が見られるようになってきた。生徒の生活アンケートからも同様の結果が得られており、授業が楽しいと感じる傾向が高まった。
(2) 単元の終わりに自分の考えをまとめ、文章や図表で表現させることにより、分かったことを自分なりの文章で表現できるようになってきた。
(3) 相互公開授業では、授業改善チェックシートの中から重点的に取り組む項目を明示することで、参観の観点が明確になり、事後の話合いでも話題が焦点化され、主題に迫る協議となった。

## ７　研究の課題

(1) 授業改善チェックシートの集計結果より、「根拠や理由をつけて話す」指導が難しいと教師が感じていることが分かる。根拠となる資料の与え方や探し方の指導の他、発問の仕方や話合いの深め方の工夫が重要であり、今後も根気強い指導の継続が必要である。
(2) 道徳や総合的な学習の時間の授業をはじめ、諸活動を通して１人１台端末を活用した取組を重ねてきた。今後は、各教科の授業において、生徒への課題のもたせ方を更に工夫し、集中して学習に取り組めるような授業づくりを目指していく必要がある。

（　記入者　髙橋　昭　）